

授業名	金融（後）
授業内容	今日の高度に複雑な金融商品や金融市場の出来事について、表面だけではなく本質的な理解をするために、まず、金融取引、銀行システム、金融市場、金融政策等のベーシックな仕組みを学び、次に、金利、キャッシュ・フローの現在価値、リスクの評価といった、金融分析全般のコアとなるツールを習得します。さらに、それらを発展させる形で、資金運用サイドの視点から、リスク選好と回避、最適ポートフォリオ選択、資産市場の均衡におけるリスク・プレミアムの決定について学び、資金調達サイドの視点から、コーポレート・ファイナンスについて学びます。また、新聞・雑誌・ブログの記事を教材として、学んだ分析ツールの応用力を養います。
授業構成	<実践> 第1回：イントロダクション 第2回：金融取引とは、利子率、金融取引に伴うリスク 第3回：金融の役割 第4回：金融システム、資金循環 第5回：貨幣と決済機能 第6回：マネーサプライ 第7回：中央銀行 第8回：銀行の信用創造とマネーサプライ、金融政策 第9回：短期金融市場 第10回：金融資産価格評価（1）現在価値、将来価値 第11回：金融資産価格評価（2）キャッシュフロー評価 第12回：債券（1）さまざまな債券、債券市場、債券価格評価、債券利回り 第13回：債券（2）利子率の期間構造 第14回：株式（1）株式の役割、株式市場 第15回：株式（2）株価評価 第16回：リスクの評価：確率入門、平均と分散 第17回：家計の資産選択行動（1）危険回避 第18回：家計の資産選択行動（2）平均・分散アプローチ 第19回：家計の資産選択行動（3）最適なポートフォリオ 第20回：家計の資産選択行動（4）市場ポートフォリオ、CAPM、リスク・プレミアム、 第21回：CAPMの応用 第22回：裁定取引と効率的市場仮説、アノマリー、バブル、ボラティリティ 第23回：行動ファイナンス 第24回：金融デリバティブ（1）先物 第25回：金融デリバティブ（2）オプション 第26回：投資信託、資産運用業 第27回：情報開示制度と投資者保護 第28回：コーポレート・ファイナンス（1）企業の目的と金融行動、実物投資行動 第29回：コーポレート・ファイナンス（2）最適資本構成、配当政策 第30回：金融危機と信用秩序の維持

授業名	経営財務論（後）
授業内容	経営財務論は、企業における金銭に関する意思決定、すなわち、企業の財務活動を考察の対象とする。本講義では、これらの問題の考察に先立ち、まず、将来発生するキャッシュフローが市場においていかに評価されるか「評価の理論」を取り上げる。そして、それに基づいて、(1)資本調達、(2)投資決定、(3)利益処分（配当決定）について、理論的に考察していく。
授業構成	1. 経営財務論とは (1) 2. 現在価値 2－1 1 期間モデル (2) 2－2 多期間のケース (3～4) 2－3 無リスク債券の評価 (5) 3. リスクとリターン 3－1 リスク嫌悪者の仮定 (6) 3－2 普通社債の評価と利回り (7) 4. 株式の評価と株式会社制度 4－1 株式の評価 (8～10) 4－2 株式会社制度の本質 (11) - 中間テスト (12) 5. 資本調達の概観と資本コスト 5－1 資本調達 (13) 5－2 証券の多様化 (14) 5－3 資本コスト (15～16) 6. 投資決定 6－1 投資決定のプロセス (17) 6－2 伝統的な投資決定法 (18) 6－3 割引きキャッシュフロー法 (19～20) 7. 資本構成 7－1 負債利用のレバレッジ効果 (21) 7－2 企業価値と平均資本コスト (22) 7－3 資本構成と企業価値 (23～24) 8. ペイアウト政策 8－1 配当政策と株主の富 (25～26) 8－2 自社株買い (27) 9. コーポレート・ガバナンス 9－1 日本企業のコーポレートガバナンスの諸特徴 (28) 9－2 M&A (29) 9－3 コーポレート・ガバナンスに関する論争 (30)

授業名	経営科学（後）
授業内容	経営者の意思決定はしばしば不確実性が存在する中で行わなければならない。例えば、ある企業がこれまでとは異なる業界に参入するか否かを決定する場合、将来得られるであろうキャッシュ・フローを評価する必要があるが、それはその業界での需要動向やライバル企業の動向など様々な将来起こるであろう状況に依存しており、確定的ではない。本講義では、このような企業や個人が直面する個々の課題を定式化し、ゲーム理論の方法を用いて理論的帰結を学び、更に人間の認知的限界により、不合理な決定が行われる可能性を検討する。 講義では、簡単な例を用いて基礎的なゲーム理論、基礎的な意思決定論を説明し、更にヒューリスティックな判断と合理的な意思決定の比較を行う。授業時間に余裕があれば、協力ゲームの一部となる交渉問題を学習する。
授業構成	理論的には以下の内容をカバーする。 ・ 不確実性下での意思決定の方法 ・ 戦略的意思決定（ゲーム理論の基礎） ・ 意思決定の心理学 上記の内容に基づき企業が直面する具体的な課題およびその解決方法について講義を行うが、直近の経済状況についても講義の中で触れるので、このシラバス執筆段階ではその内容は確定していない。以下はこれまでの講義トピックであり参考にしてほしい。 第1回 オリエンテーション（企業が直面する課題） 第2回 オリエンテーション（課題解決の事例） 第3回 戦略ゲームとナッシュ均衡点（事例） 第4回 戦略ゲームとナッシュ均衡点（理論1） 第5回 戦略ゲームとナッシュ均衡点（理論2） 第6回 戦略ゲームとナッシュ均衡点（応用） 第7回 ダイナミックなゲーム（事例） 第8回 ダイナミックなゲーム（理論1） 第9回 ダイナミックなゲーム（理論2） 第10回 ダイナミックなゲーム（応用） 第11回 繰り返しゲーム（事例） 第12回 繰り返しゲーム（理論1） 第13回 繰り返しゲーム（理論2） 第14回 繰り返しゲーム（応用） 第15回 前半のまとめ 第16回 前半のまとめ 第17回 中間試験 第18回 不確実な相手とのゲーム（事例） 第19回 不確実な相手とのゲーム（理論1） 第20回 不確実な相手とのゲーム（理論2） 第21回 不確実な相手とのゲーム（応用） 第22回 判断と選択におけるバイアス（事例） 第23回 判断と選択におけるバイアス（理論） 第24回 判断と選択におけるバイアス（応用）

	第 25 回 意思決定理論 1 第 26 回 意思決定理論 2 第 27 回 交渉問題（理論 1） 第 28 回 交渉問題（理論 2） 第 29 回 交渉問題（応用） 第 30 回 後半まとめ
--	---

授業名	憲法 I (A) (後)
授業内容	憲法の「基本権」の分野を扱う。基本権の章を理解する上で必要な「統治機構」の考え方も簡単に説明する。
授業構成	第 1 回：ガイダンス 第 2 回：統治機構概論①：議院内閣制(1) 国会・内閣の組織 第 3 回：統治機構概論②：議院内閣制(2) 国会の権能 第 4 回：統治機構概論③：議院内閣制(3) 内閣の権能 第 5 回：統治機構概論④：裁判所の組織 第 6 回：統治機構概論⑤：裁判所の権能 第 7 回：中間総括 第 8 回：基本権概論①：防御権(1) 防御権の思考枠組み 第 9 回：基本権概論②：防御権(2) 表現の自由 第 10 回：基本権概論③：防御権(3) 経済活動の自由 第 11 回：基本権概論④：平等原則 第 12 回：基本権概論⑤：政教分離原則 第 13 回：基本権概論⑥：婚姻・家族制度の制度設計 第 14 回：基本権概論⑦：選挙制度の制度設計 第 15 回：総括

授業名	民事訴訟法 II (2 クラス) (後)
授業内容	私人の社会生活における権利・義務関係は、民法・商法などのいわゆる実体法によって規律されている。そして、そのような権利・義務関係が全うされない場合には、民事紛争が生ずることとなる。 民事紛争は、私人間の紛争であることから、当事者同士の話し合いによって解決できるものではあるが、解決が見出せない場合には、自力救済（紛争解決のための実力行使）を禁じられた当事者の救済のため、あるいは未解決紛争の堆積がもたらすであろう社会的混乱の回避のためと、その目的には諸説あるが、とにかく、国家がその解決を引き受けることが必要となる。民事訴訟法は、そのような、国家による紛争解決の手続を定めた法律（手続法）であり、実体法上の権利を実現するにあたって、我々の社会生活と間接的に深く関わるものである。 本講義は、この民事訴訟法を概説するものである。民事訴訟法の全体的な構成の後半部分として、口頭弁論から判決および複雑訴訟形態、上訴再審につき、手続の流れに沿って講義を行う。
授業構成	序回 ガイダンス・授業内容・単位条件・授業方針および第 1 回の内容 第 1 回 弁論主義

	第2回 訴訟行為 第3回 証拠（事実認定と自由心証主義） 第4回 証拠（証明責任・文書提出命令） 第5回 判決効の客観的範囲・時的限界 第6回 判決効の主観的範囲 第7回 当事者による訴訟の終了 第8回 複数請求訴訟 第9回 多数当事者訴訟（共同訴訟） 第10回 多数当事者訴訟（独立当事者参加） 第11回 多数当事者訴訟（補助参加・訴訟承継） 第12回 上訴・再審 第13回 略式訴訟手続 第14回 まとめ
--	--

授業名	共通科目 プラクティカル・キャリアデザイン (C) (後)
授業内容	★自分の理想の未来を創りにいくアクティブラーニング形式の授業 「受ける授業から創る授業・創るキャリアへ」と題して進めていくので、自分の進路について具体的な進路について描いてゆける。さらに具体的な目標設定と手段にも踏み込むため、一般論ではなく、自分の理想に近づいてゆく。 詳細は以下のとおり。 ①インターンシップ・就職活動（教員・公務員・起業・進学・留学などを含む）を中心に将来の進路の描き方（キャリアデザイン）を実践的に学ぶ。自己分析など演習を中心におこなう。前期と後期ではインターンシップや選考など時期にあわせて内容を変える。 ②『受ける授業から創る授業へ』やがて自分の就職活動などキャリアデザインに『活かせる授業へ』。一方的な講義だけで終わる90分はない。ワークショップを中心とした、学生同士が学びあい育てあい活かしあう授業。 ③キャリアコンサルタントである講師（私）が最新の社会変化や就職活動に関する情報を元に講義をおこない、よりスムーズな就職活動がおこなえるものを目指す。 ④今期も経営者、起業家、人事部採用担当などゲストは多彩に招致する。例年OBOGを含め30人ほど。 ⑤講師、ゲスト、学生同士との対話が中心になるので、相当賑やかな授業になる。個性を尊重し、紳士・淑女たるべく授業となる。同時に考え方とやり方の両方を重んじる。本番に備える授業であるので、対話などが多くなる。だからこそ自分の未来にとって楽しく役立つ授業を一緒に創ってゆける。
授業構成	全体構成 キャリアデザインや就職活動の基本→思考行動方法の提案→目標設定→コミュニケーション能力開発→自己理解（自己分析）→業界・企業・職種研究→時代のトレンド変化→面接対策→グループワーク対策→プレゼンテーション === 第1回 □オリエンテーションーキャリアデザインと就職活動ー □キャリアデザインの基本①ー日本全体と甲南大学生の進路実態ー 第2回

□キャリアデザインの基本②ー就職活動の構造と流れー 第3回 □キャリアデザインの実践①ー問題志向から、ソリューションフォーカスへの転換ー □キャリアデザインの実践②ー「光り輝く存在」としての2ゴール設定ー □キャリアデザインの実践③ー自分の現在地と目標を確認しよう 第4回 □コミュニケーションの基本①ーコーチングに学ぶコミュニケーションの伸ばし方ー 第5回 □社会との接点ーインターンシップ・スタディツアーを中心に夏休みキャリア計画ー 第6回 □自己分析①・②ー自分エンジン・グラフ作成とペンタ plus ワンー □エントリーシート作成① + 模擬面接①（はじめての自己PR編） 第7回 □自己分析③ー価値観とはー □自己分析④ー個性とはー 第8回 □社会研究・企業研究②ー俯瞰図で仕事の流れを見る力を養う □社会研究・企業研究③A 第9回 □社会研究・企業研究③B ゲストディー人事部の考えと行動から学問 第10回 □社会研究・企業研究④ー職種研究を俯瞰図で見る、そして自分の役割へー □社会研究・企業研究⑤Aーグループワーク（作戦会議編）ー 第11回 □社会研究・企業研究⑤Bーグループワーク（発表編）ー □エントリーシート作成②Aー（志望動機を加えて）ー 第12回 □エントリーシート作成②B+模擬面接②（志望動機を加えて）ー □社会研究・企業研究⑥Aー社会人の考えと行動から学問 第13回 □社会研究・企業研究⑦ーグローバル社会研究ー 第14回 □エントリーシート作成③+模擬面接③（ES+自己PR+志望動機+志望内容） □キャリアデザイン実践・最終作戦会議 □自己採点 第15回（前期は7/15土曜日に実施） □社会研究・企業研究⑥Bー社会人の考えと行動から学問
--